

社報

高縄

平成 29 年 4 月号

愛媛県松山市宮内甲 102

高縄神社社務所

ご案内

平成二十九年四月二十二日(土曜日)

高縄神社春季大祭

祭典：午前十時始式

行事：午後一時三十分

少年奉納相撲

(河野小学校四年以上男子)

餅まき

(奉納相撲終了後)

献花

ぜひ、ご参拝ください。

度胸だめし

《氏子からの寄稿》

別府区氏子 青木伸夫

十年一昔と言われて久しいが、これでいくと七昔も前のことになる。私が小学校低学年頃の高縄神社での度胸だめしを懐かしく思い出してみたい。

毎年夏休と冬休に子供会の早起き会が行われ朝五時に起床し組毎に揃って高縄神社へ集合し、参拝のあと裏山へ上がり二班に分れて陣取り合戦などで遊び明るくなって帰るのである。

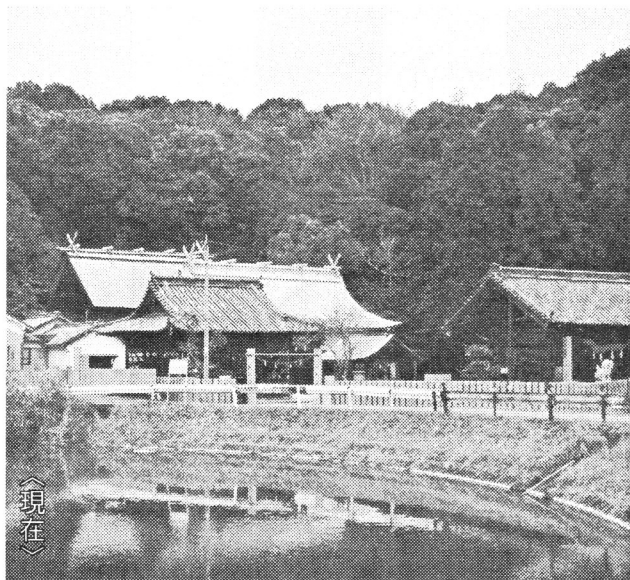
夏の夜明けは早いですが冬はまだ暗い。そんな中で時々度胸だめしが行われた。

度胸だめしとは、肝だめしとも云い、物事に動じない心、胆力をためすこと。辞書にも載っているのが各地で行われたと思われる。途中の騙す役は上級生である。このあたりでもよく行われた。神社の拝殿と本殿を一人づつ一回りするのである。騙す役はいなかったが暗くて低学年には不安であった。

本殿の裏の方は暗く足元が見えにくい。左回りで進み裏を過ぎると気持も落ち付きやれやれと安堵の気持になり小走りになる。

ところが本殿の北側に50cmぐらいの石積の段差があり(現在もある)小走りになったとたんその段差が見えず、すっと落ち、びっくり冷や汗が出た想い出は今も忘れない。

このように高縄神社は私達の緑豊かな歴史ある鎮守の森として静かに手を合わす所であると共に子供の頃よく遊び、身体は勿論、心を鍛えてくれたことに感謝している。



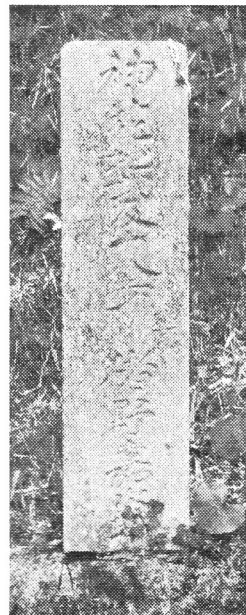
《現在》



《昭和二十年頃》

石文めぐり (その4)

高縄神社境内の南、十六王子社から裏にまわって忠霊塔へ登る曲がり角に、石碑が建っています。



前面には
「神苑地式反十八歩 柳原 猪野嘉次郎」
と彫られており、左側面が「大正十三年五月十日」となっています。

猪野嘉次郎氏は雪雀酒造の創業者で、また「木童」と号する文人でもありました。犬養毅（木堂）との交友に由来する雅号だそうです。

寄贈された山林は、宮内山とよばれる丘陵です。梨の果樹園だったのを公園にするため、植樹したり遊歩道を整備したりして、当時は見晴らしがよく、昭和三十年に忠霊塔が建立されました。

絵馬がたり (その5)

前回「その4」（昨年十一月号）までは、舞殿に掲げられている絵馬を紹介しました。今回は、拝殿左右に掲げられている絵馬について語りましょう。

南側（向かって右手）にあるのが

『明治参拾八歳壹月一日旅順水師營乃木大将降将ス
テッセル會見之圖』で、落款は「芳峯」です。



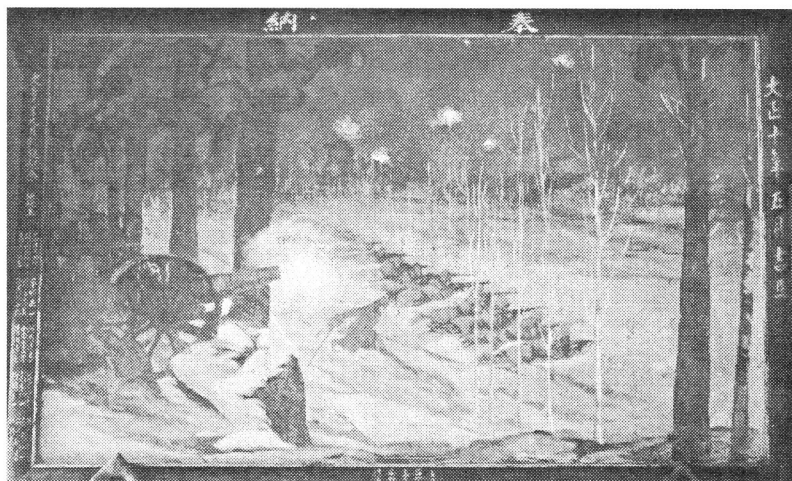
明治三十七年（西紀1904年）に始まった日露戦争で、バルチック艦隊との決戦にそなえて旅順港を無力化すべく、海軍の要請を受けた陸軍が乃木希典第三軍司令官の指揮で軍港背後の要塞に猛攻撃を繰り返し、甚大な犠牲者を出しながら二〇三高地を突破して要塞を陥落させました。

降伏の会見は、水師營で行われました。旅順要塞司令官はステッセル将軍です。

乃木大将は、ステッセル将軍に着剣を許しました。近代戦では降伏した敗者は武装解除されるのですが、武士道と騎士道をわきまえた両将軍は、互いに敬意をもって会見が行われたといわれています。

額の上縁に横書で「奉獻」とあり右縁は「明治三十拾九年八月吉日」で「幹旋人」として七人の名前。左縁に「日露戦役記念」と記され下縁に郷土からの出征兵士と思われ八十人余りの名前があります。

これと向かい合って北側（向かって左手）にあるのは『黒龍江渡河戦の図』です。



これはシベリア出兵の戦いを描いています。雪に閉ざされ凍結した黒龍江（アムール川）で、対岸を砲撃銃撃しながら兵隊さんたちが渡ろうとしています。

額の上縁に横書で「奉納」とあり右縁は「大正十年五月吉日」で「世話人」として四人の名前。左縁に「大正九年凱旋記念」と記されその下に郷土からの出征兵士と思われる十六人の名前があります。

大正七年（西紀1918年）から十一年（1922年）にかけて、わが国はロシア革命に対する措置として西洋列強の動きに合わせ、チェコ軍救援の名目で、シベリアに出兵をしました。

ロシア革命は、1917年の三月十二日に労働者や

兵士がロマノフ王朝を倒したのが二月革命で、同年十一月七日、レーニンひきいるボルシェヴィキが武装蜂起してソビエト政権を樹立したのを十月革命といいます。

なぜ三月十二日なのに二月革命といい、十一月七日なのに十月革命なのかといいますと、この社報の平成二十八年二月号【温故知新】欄にも書きましたが、帝政ロシアでは宗教上の理由によりグレゴリオ暦を採用せず旧暦（ユリウス暦）だったから日付にずれがあるのです。

ソビエトとは、労働者・兵士・農民の代表者組織です。革命は周辺諸国に波及して、ロシア・ウクライナをはじめとする十五の国から構成されたのが、ソビエト社会主義共和国連邦（ソ連）で、第二次世界大戦後、冷戦における一方の主役でしたが、1991年に解体しました。

革命当初の1919年、レーニンはモスクワで第三インターナショナル（コミンテルン）を結成しました。日本では大正十一年（西暦1922年）、コミンテルン日本支部が非合法で結成され、打倒すべき敵として「天皇制」を挙げており、コミンテルン日本支部を前身とする政党は、つい最近まで国会の開会式を欠席していました。そもそも「天皇制」という言葉自体がコミンテルンによる造語なのです。

レーニンや毛沢東や金日成は、「嘘でも百回千回言い続けたら事実として通る」を信条としていました。その信条は今も中華人民共和国や朝鮮民主主義人民共和国に受け継がれているようですね。

ロシア革命では皇帝たちを処刑して遺体を硫酸

で溶かしたりしました。今も朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）などで行われている血の粛清。おぞましいかぎりです。そんな革命の拡散を牽制するためのシベリア出兵は、他国が撤退した後も日本軍は単独駐留して世界から非難されました。が、ともあれ当時十六人の高縄神社氏子が出征しています。次に紹介するのが『桜井の決別』です。



「青葉しげれる桜井の、里のわたりの夕まぐれ……」この唱歌は『楠公の歌』のなかの

「桜井の決別」です。ご年配の方々なら昭和二十年以前に学校で歌われていましたから、たいがい憶えておいでのことでしょう。

戦後生まれの人でも、たとえば今では宝塚の定番演目になっている『ベルサイユのばら』（原作は、雑誌の連載漫画）の作者である池田理代子さんも、少女時代から楠公（楠木正成を大楠公、楠木正行を小楠公という）を尊敬し、十五番までであるこの歌を全部暗誦できるそうです。

建武三年（西暦1336年）、後醍醐天皇に叛いて九州に落ちのびていた足利尊氏が勢いを盛り返して攻めてくるとき大楠公は、これを迎え撃つ作戦の建言が悉く却下されて、もはや勝ち目の無い合戦と知りながら出陣し、桜井の駅（今の大阪府北東）で嫡子である小楠公と訣別しました。それを描いたのが、この絵です。

湊川で激しい戦いの末、最期を迎えた大楠公が、兄弟で交わしたという会話が「七度まで人間に生まれて朝敵を滅ぼさばやとこそ存じ候らへ」です。

今年三月二十一日に明治神宮会館で、約1900人が集まってシンポジウム「楠木正成考」が開催されました。基調講演では作家の井沢元彦さんが「正成は軍略家で見通しのいい人だったのに、あえて殉じる道を選んだ。優秀で誠実、魅力に富んだ人だった」と述べ、雅楽師の東儀秀樹さんが「学校教育から叙情歌が減っていることに怒りを感じる。美しい歌と言葉に日本の心がある」と話し、今回のために編曲した唱歌『楠公の歌』を笙で演奏して、会場は大きな拍手に包まれたということです。

平成二十九年 度予算

二月十七日、高繩神社責任役員会で平成二十九年 度高繩神社経常費収支予算が可決成立しました。

申すまでもなく、神社の運営は、氏子の皆様から いただく浄財によって成り立っています。けれども 現実にはきびしく、神社をささえる基盤の地域社会は 変貌しています。氏子である地域住民の意識変化も 見のがせず、価値観の多様化や宗教はなれなどで、 氏神様の存在感は、いやおうなく希薄になってきて います。

何とかしなければなりません。

時代の流れに沿うよう智慧を絞り工夫を凝らし、 策を立案し練りに練って、氏神様のあり方を変えて まいります。ただし、いいかげんな思いつきで派手 なことをやり、一方で先人が営々と築きあげた遺産 と伝統をないがしろにするようでは、元も子もなく してしまいます。

改革すべきは改革します。神様が鎮座しているの です。神域を清浄に保ち、祭祀を連綿とおこなって いさえすれば、必ずや道は開けます。

そのための費用が経常費です。残念なことに社入 金は10万円減額の見込みになりました。

皆様からいただく浄 財は、節約を心がけ有効 利用に努めますので、何 卒よろしく御願ひ申し 上げます。

勤勞奉仕

三月十一日、高繩神社 総代・協議員による勤勞 奉仕が行われました。

午前九時、神前に奉告 参拝してから作業に取 りかかり、境内社有地の 孟宗竹や雑木を伐採し て、すっきりしました。

なお、枝が本殿に覆い 被さった大木は、後日、 業者に委託して伐採と 枝切りをしました。

歳入科目(款)	予 算 額	前年度予算額	増減(△は減)
1.繰越金収入	円 400,000	円 300,000	円 100,000
2.神饌幣帛料	12,000	12,000	0
3.社入金	5,180,000	5,280,000	△100,000
4.寄附金収入	70,000	70,000	0
5.繰入金収入	10,000	10,000	0
6.雑収入	8,000	8,000	0
収入合計	5,680,000	5,680,000	0

歳出科目(款)	予 算 額	前年度予算額	増減(△は減)
1.祭典費	円 1,063,000	円 1,033,000	円 30,000
2.神符守札調度費	350,000	540,000	△190,000
3.社務費	2,180,000	2,290,000	△110,000
4.教化費	210,000	210,000	0
5.管理費	1,125,000	825,000	300,000
6.負担寄贈金	506,000	466,000	40,000
7.繰出金	100,000	100,000	0
8.予備費	146,000	216,000	△70,000
支出合計	5,680,000	5,680,000	0

